

CONTENTS COMBAT

2015.Apr.
No.469

4

Cover Design Raidensha
(Hidetaka Koyanagi)
Cover
©CAPCOM CO., LTD.
ALL RIGHTS RESERVED.
WORLD PHOTO PRESS 2015
※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



007

【第1特集／バイオハザード】

BIOHAZARD REVELATIONS2

●Photos&Text by

008 バイオハザード リベレーションズ2の真実
GAME リベレーションズ2の真実

014 対談 カプコン×東京マルイ

018 サムライ・エッジ
バリー・バートン・モデル Ver.II 開発秘話

023 USJでバイオハザード体験!

【第2特集／ミリタリー】

024

第一空挺団降下訓練始め

●取材:菊池雅之

044

The Equipments of the U.S. Force [現用米軍装備カタログ] 第127回

NAVY SEALS装備特集Part.6 実物SEAL画像で装備を組んでみよう!

●解説:松原隆 ●撮影:山崎 学

062

SHOT SHOW 2015

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

074

NEW GENERATION STYLER

●fujiwara

085

Militaria Roundup! 各国軍用ナイフ

●解説:菊月俊之

【第3特集／トイガン】

028

TOKYO MARUI USPコンパクト

●Photos&Text by Tomo Hasegawa

030

WESTERN ARMS アルティメット・コレクション WILSON COMBAT SERIES

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

035

WESTERN ARMS M4A1 HULL METAL CUSTOM SERIES

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

040

MULE プラチナ ライン シリーズ CAWSIG P210 PLATINUM LINE

●Photos&Text by Taku



145

KNIFE

146

US ナイフマーシャル・アーティスト ジョー・ニポ

150

古川四郎「タクティカル・ハンター」

154

ショットショー2015[ナイフ編]

156

スタッフ通信 from Knife Magazine Staff



004

COMBAT FRONT LINE

054

Goods & Accessory

058

トイガンニュース

058 WA ワイルドホーク・シリーズ

060 タナカ S&W M500 83/8inch Ver.2 ステンレス・モデル

084

サーいじ技研

●織本知之

096

PRESENT

104

月刊・自衛隊「にっぽんのちからこぶ」

●取材:菊池雅之

130

FEAR NOT THE DARK.....
Power of Light

SURE FIRE

act05 ウェポンライトPart.2

●Photos & Text Tomo Hasegawa

134

走って撃って楽しんで

サバゲ放浪記 ゆい散歩 其の5 台湾編

●取材:上矢ゆい

136

PROJECT NINJA

●morizo (東京装備BAKA)

138

monoショップ新聞

140

兵装嗜癖

●by Fujiwara

200

中田商店グッズ

202

S&Grafグッズ

097

ふれんどりっファイヤー!

108

ミリタリー雑学講座

112

蛙のゆびさき(中山 蛙)

114

OPERATION Junk food

116

アメリカGUN事情 Guns Talk from US

118

戦車兵通信 WORLD OF TANKS

120

物欲ワンホール

124

トイガンズジャンクション

177

バックナンバーリスト

178

帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!?]

180

レア・ミリタリー・テクノロジー

182

狩野健一郎のシネマ放浪記

183

狩野健一郎の新作DVD紹介

184

A STITCH IN TIME

185

新春ブラックホール

186

読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

188

ミリタリー・コレクション

190

コンバットマガジン・インフォメーション・センター

191

読者プレゼント応募方法

192

編集後記



第一空挺団 降下訓練 始め

2015.1.11

日本でいちばん過酷な訓練を実施するのが第1空挺団。そして毎年1月に行なう降下訓練始め。青空の広がる中、今年も例年通り実施された。

今回初お披露目となった13式空挺傘。13傘（ひとさんさん）と略して呼ぶ。平成25年度より配備が開始されたばかりの国産落下傘だ。



自由降下（フリーフォール）。特殊部隊では必須の技術。コントロールがしやすいスクエア型のMC-4落下傘を用いている

平成26年1月11日、毎年恒例の第一空挺団による「降下訓練始め」が習志野演習場（船橋市）で行なわれた。1961年に始まった「開傘祈願祭」を起源とし、1974年から一般公開することとした。それ以来、多くの人が心待ちにするものとなり、富士総合火力演習と並んで、大人気の自衛隊イベントのひとつとなっている。

第一空挺団は日本で唯一の空挺降下部隊だ。戦後まもなくして、空挺部隊を復活させようとの動きがあった。部隊創設に大きく貢献されたのが、衣笠駿雄元少佐だ。1945年航空総軍参謀を務められている時に終戦。その後、警察予備隊に入隊し、保安隊を経て陸上自衛隊へ。そして空挺部隊復活を命じられ、当時福岡県香椎にあった米軍キャンプに駐留していた第187空挺連隊の協力のもと、第1次研究員訓練が開始された。当時の人員はわずかに20名。1955年1月臨時空挺練習隊が創設される。同年4月に習志野駐屯地へ移駐。1956年1月に第101空挺大隊が発足。1958年6月、同大隊は第1空挺団へと拡大改編された。もちろん初代団長を務めたのは、衣笠駿雄1佐であった。余談だが、ご子息である陽雄氏も防衛大学校を経て陸上自衛隊へと入隊。数々の要職を歴任し、なんと第18代第一空挺団長（1998年7月～2001年1月）になられた。親子で団長を務めるというのは前代未聞のことだった。

第一空挺団は、自衛隊内でもっとも過酷な訓練を実施しているといわれている。その代表的なものが空挺レンジャー課程だ。各部隊でもレンジャー養成のための



降下後MC-4をたたんでいるところ。高高度からの隠密に降下するフリーフォール（FF）は、すべての空挺隊員ができるわけではなく、一部のエリートのための技だ。



中谷元防衛大臣も視察に訪れた。こうして歴代の防衛大臣（長官）が毎年欠かさず視察に訪れるのは第一空挺団の降下訓練始めのみ。

日本唯一の空挺降下部隊による空地一体戦闘

訓練は行なっているが、いずれも志願制。しかし第一空挺団に入るとレンジャーは必須科目。空挺隊員たちは胸に空挺降下という特殊な技術を持つ者に与えられるパラシュートの形をした徽章の下に、ダイヤモンドをあしらったレンジャー徽章をつける。このダブルの徽章を掲げることが陸上自衛官にとっての憧れなのだ。2002年頃、第一空挺団の中から優秀な者を選抜。それをふるいにかけ、2004年陸自初の特殊部隊である特殊作戦群が発足している。このふたつの徽章に加え、特殊作戦徽章を加えた3つの徽章を付けた隊員はもはや”神”という扱いだ。

こうした歴史、そして日々の訓練から、やはり第一空挺団は自衛隊内において別格となっている。降下訓練始めには、歴代の防衛庁長官、そして防衛大臣が必ず視察



UH-1Jにより進出してきたスナイパー。全身をこれでもかというほどのギリースーツで覆っている。手にしているのは対人狙撃銃M24SWS。



UH-1Jよりリベリング降下を行なう空挺隊員たち。パラシュートを用いた空挺降下とともにヘリボーンも得意とするところだ。



今年も存在感ばっちりだったAH-64Dアパッチ。航空学校霞ヶ浦校に所属。陸自アパッチは13機で調達中止となってしまった。

ULTIMATE COLLECTION WILSON COMBAT SERIES



WILSON COMBAT《PROTECTOR/ ULTIMATE COLLECTION》



ウィルソン・タイプのフィクドサイト、メタル・チェンバーカバーなど、オリジナルをリアルに再現している。

- ウィルソン・コンバット
〈プロテクター／
アルティメット・コレクション〉
- 全長：約220mm
 - 銃身長：約114mm
 - 重量：約920g
 - 装弾数：23+1発
 - 特別価格4万5684円
 - 2月下旬WA渋谷店限定発売予定

ウエスタン アームズ入魂の、タクティカル系ベーシック.45

ウエスタン アームズ（以下：WA）が創立40周年を記念して製作する“アルティメット・コレクション”。創立当時からこだわり続けてきた.45を中心にラインナップされたこのシリーズが、トイガンファンの間で大きな反響を呼んでいる。

このシリーズの基本コンセプトは、1挺1挺充分な時間と手間をかけ、WAファンに最高品質のトイガンを提供することだという。メイン素材は、独特の金属感と重量を備えたCBHW。手にした時、外観の印象をそのまま伝える重量感を追求し、樹脂メーカーとともに開発したWA独自のHW素材だ。

金型成型したフレームとスライドに研磨、黒染めを施し、全体にいったんブラストショットを掛ける。その後、フラット・サイドを丹念にポリッシュ。これによって、曲面部分はツヤのない細かな梨地、平面部分はシットリとしたガンブルー色となり、立体感あふれる外観が備わる。と同時に、研磨によって際立った平面と曲面のエッジが、シャープなイメージをアピール。まさに

スチールを削り出して製作された銃器そのまもの、硬質で存在感のあるたたずまいを醸し出す。

通常モデルにくらべて、約2倍の時間と時間をかけて製作されるアルティメット・コレクションは、価格も当然それなりでコレクターズ・アイテムの感覚だ。しかし簡単に入手できないからこそファンにとって憧れの存在であり、往年のファンにとって価値あるシリーズになっている。BB弾を撃つことを最大の目的とするファンも、このシリーズにはぜひ注目して欲しい。仕上がりのクオリティが高い外観ということは、つまりリアルな外観ということ。アルティメット・コレクショ



高級コボロウッド・グリップが付属するプロテクター。サムセフティはナロー・スパーのシングル・サイド。ベーシックなパーツ構成に、ファイティング・カスタムらしさが窺える。



今回紹介するのはDEFCON Groupのサイトで紹介されたDEVGRU隊員の装備だ。写真はおそらく米軍や司法関係の隊員を指導している画像と思われる。支給されたOPS-COREヘルメットやNJPCに見たことのないTシャツやナイフが写っている。

筆者はインターネットを駆使して3ヵ月かかって何とか形になるくらいに揃えてみた。ナイフははっきりと写っていないものの他の隊員の資料や付属のアクセサリー等からウィングクラスIIナイフと勝手に判断。シャツはいいタイミングでトイソルジャーHPにて販売していたので今回の掲載に間に合った。

[Photo: US NAVY]



写真の装備を組んでみた。

The Equipments of the U.S. Force

[現用米軍装備カタログ] 第127回

**NAVY SEALS 装備特
実物 SEAL 画像で装備**

**集Part.6
を組んでみよう!**

●解説: 松原隆 ●撮影: 山崎 学
●協力ショップ: LAZY CAT (<http://lazycat.jp/>) / Gamis (<http://www2.ocn.ne.jp/~gamis/>) / Tri.S (旧・特小工房 (<http://tri-ss.com/>)) / ウィリービート大阪店/東京店 (<http://www.willy-peet.com/category/>) / トイソルジャー & FIMA
●参考資料: US NAVY (<http://www.navy.mil/>) / <http://www.defcon-group.com/> / DEFCON Group フェイスブック (<https://www.facebook.com/pages/DEFCON-Group/451123711608530>)

Shooting, Hunting, Outdoor, Trade SHOW in Las Vegas SHOT SHOW 2015

Photos & Text by TOMO HASEGAWA

アメリカで開催される世界最大規模の銃器見本市。
毎年1月、世界中から銃器やナイフ、装備やハンティング、
アウトドアに関係する会社が大集合。
ガン業界の新年幕開けの大イベント。

今年2015年のショットショーは、1月20日から23日までの4日間、ネバダ州ラスベガス“サンズエキスポセンター”で開催された。

新型銃やアクセサリなど、いろいろ楽しみがあるが、具体的な新製品のニュースだけでなく、ショットショーには毎回その年を象徴するような“うねり”があるものだ。今年の開催前に話題だったのは、米軍の次期制式採用拳銃トライアルについて。

2014年10月、米陸軍から「新型制式拳銃コンペを今年2015年1月からスタートする」という趣旨の発表があったそう。フルサイズ拳銃28万挺、コンパクト拳銃7000挺の初回調達を2017年に実施する予定だという。陸軍以外の米軍機関でも順次21万2000挺の調達が予定されているという。

その内容は“MHSプログラム”と呼ばれるもの。“MHS”とは「モジュラー・ハンドガン・システム」の略称。兵隊の体格や置かれた状況に合わせ、セットアップを変化できることが求めら

れているようだが、詳細な内容は不明。しかし、ショットショー会場を巡ると傾向は感じ取れるのだ。すでにSIG社から“P320 MHSエディション”が発表されていて、オリジナルバージョンとの改良点が見える。

- アンビサムセーフティ
- スライドストップの小型化
- ファイアリングピンセーフティ
- カートリッジインジケーター

など。手のサイズに合わせグリップサイズが変更できる点や、ライトやレーザーサイトを装備するためのアンダーマウントレールなど、臆気ながら“MHSプログラム”の要項が浮かび上がってくる。

口径も9mmだけでなく、.40S&Wや10mm、.45口径が候補に上がっているという。さらに、専門メーカーにハンドガン用サプレッサーの発注もあったことから、サプレッサーに対応できる要項も含まれていることが推察できるのだ。

すでに数回関係銃器メーカーには打

診があったようで、トライアル参加メーカーは明確にされていないものの、ショットショー会場には“MHSプログラム”対応であると思える新作が立ち並ぶ。それらを見極めながら、現時点でどの製品がもっとも有利か？ 思いを巡らすことは実に楽しい。

たとえトライアルに勝ち残れなくても、ミリタリーからの要求に対応した改良は、一般マーケットでも効果を発揮する。よりよい製品を求めるユーザー。そして新たなアイデアで開発するメーカー。開発する側はニーズを読み解いて最適なアイデアを用意。採用する側にはそのアイデアを正しく判断する知識が必要とされ、ともに努力を怠らない。アイデアが優れていれば、確実に評価され採用されていく。ここが素晴らしい。

またM4系ライフルの進化具合、新たなアクセサリや新型ライフルの登場など、魅力的な製品がたくさん！

これだからショットショーは面白い。